

遺族大会に参加して

いの町 濱田 みはる

今年7月16日に開催された高知県遺族会遺族大会に出席して、いろいろな話を聞かせていただき貴重な機会を与えてもらったことに感謝しています。

私は、初めての参加で最初は出席に少し不安もありましたが、今年2月に突然に脳梗塞で亡くなった母のことを思い参加させていただきました。

母の父、武田昭一は沖縄の石垣島で戦死しています。護国神社にはいつもお参りに来ており、毎年11月に行われる沖縄土佐之塔慰霊巡拝の旅にも、母と一緒に参加させていただいています。

私は小学生の頃から祖父のことを母から聞かされておりました。とても家族思いの優しい祖父だったそうです。戦争のために大事な命を失い、祖父はさぞかし悔しかったと思います。

家にも大きな祖父の写真があります。が、祖父を好きだった母は、いつも祖父の写真をバックに入れて持っていました。可愛がってもらい、慕っていた父を失った娘、母の気持ちがいまさらには偲べれます。

いつも母は、“戦争はいかん、戦争は皆から何でも奪っていく、戦争が憎い”と言っていました。こうした思いにもかかわらず、今も世界のあちこちで、戦争が起こり、多くの子どもたちも犠牲になっています。

今私たちに出来ることを少しでも取組んでいかなければならない。それは母の供養にも繋がると思います。

遺児遺族の方々も高齢となられ、後継者を求めていることを聞き、是非早めの青年部の設立を願っています。仲間の皆さんと一緒に、若い人たちに平和の大切さや戦争体験を引き継ぐものとして、語り継いでいきたいと思っています。

※平成29年9月高知県遺族会報掲載